



教育委員つらム

発行元
弟子屈町教育委員会

教育長	小林 俊夫
職務代理	榎本 悦子
委員	菅原 誓之
委員	金井 秀明
委員	吉田 一徳



弟子屈町教育委員会
〒088-3292 北海道川上郡弟子屈町中央2丁目3番1号 弟子屈町役場
電話:015-482-2945 HP:<http://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/>

教育委員リレーコラム

新規事業「第1回弟子屈町文化交流フェスティバル」開催！！ ～町内園児児童生徒等総勢670名参加～

教育長 小林 俊夫



11月14日、弟子屈小学校を会場に、幼保小中高等学校連携事業として、「第1回弟子屈町文化交流フェスティバル」が開催されました。この連携事業は、「環境美化」や「環境保全」を学習テーマにして、平成18年度～平成21年度の「クリーン・タッチ事業[ゴミ拾い活動]」からはじまり、続いて平成22年度～平成24年度「グリーン・タッチ事業[桜植樹活動]」、平成25年度～平成27年度「ジュニアパークレンジャー事業[外来種オオハンゴンソウ駆除活動]」、平成28年度～平成30年度「フラワー・タッチ事業[花壇づくり活動]」と13年間にわたって行われてきましたが、当初の目的が十分達成されたことから、今後は各園や小中高等学校が、それぞれ個別に工夫を凝らした事業として継続させることとしました。これらに変わる連携事業として本年度からは、文化的活動を通して連携を深めることを目的に、各園・学校の学芸会・文化祭等で発表された演目から1つ選択して、みんなの前で発表し合う「文化交流事業」として連携を深めることにしました。

体育館には、川湯保育園児と地域連携型認定こども園ましゅうの園児、5小学校児童と2中学校生徒、弟子屈高等学校の生徒、それに各教職員や保育士を含め総勢670名の皆さんが集まりました。司会を務めたのは、弟子屈中学校3年生の秋山健悟君と野呂啓夢君です。プログラム順に紹介しますと、1番「弟子屈小学校」（全校合唱「tomorrow」）、2番「美留和小学校」（全校「美小ソーラン2019」）、3番「和琴小学校」（全校合唱「気球ののってどこまでも」）、4番「川湯保育園」（おゆうぎ「パブリカ」）、5番「地域連携認定こども園ましゅう」（おゆうぎ「よっちゃれ」）、6番「川湯小学校」（全校合唱「ベストフレンド」）、7番「奥春別小学校」（全校舞「鑑別獅子舞」）、8番「特別企画」（参加者全員による合唱「弟子屈町民の歌」）、9番「弟子屈中学校」（全校合唱「時を越えて」）、10番「川湯中学校」（全校リコーダー合奏「天空の城ラピュタより 君をのせて」）、11番「弟子屈高校」（弟高祭アトラクションメンバーによるダンス）の11演目で、どれも一生懸命取り組んでいる様子を覗うことが出来ました。

特に注目した点は、「町民の歌」全員合唱の取り組みでした。この歌は今から35年前、弟子屈町80周年記念事業の一環として、池ヶ谷栄一作詞・八洲秀章補作詞作曲（「山のけむり」「あじさいの歌」などで知られた作曲家）の両氏によって誕生し、昭和59年12月1日に制定されたものです。弟子屈町の素晴らしい自然や歴史、希望等を表現した「歌詞」で綴られ、大変歌いやすい「曲」となっていることから、郷土学習教材として初めて取り上げました。各園と学校に「町民の歌」を集録したCDを配付し、それぞれで練習を積み重ねてもらい、今回いきなり本番となりましたが、声を張り上げ見事に歌い上げることが出来、感動すら覚えました。既に、弟子屈町民大学生きがい講座弟子屈学級と川湯学級、子ども園の皆さんには歌われていますが、まだまだ知られていないのが現状です。これを機会に広く町民の皆さんに普及させたいものです。

実行委員長を務めた前川重雄弟子屈小学校教諭は振り返って「鑑賞する態度はもちろんのこと、発表ごとに大きな拍手が起きるなど、楽しい雰囲気が会場いっぱい広がっていました。また、初めて挑戦した『町民の歌』は大変心配していましたが、全員が大きな声で歌うことができ、学習の成果を発表する素晴らしい文化交流が出来たのではないかと思います。」と語ってくれました。

小中高等学校等の連携が郷土愛を育み、一貫教育に繋げていけるよう望んでおり、今後の取り組みに大いに期待しているところで



次回リレーコラムは
吉田委員です。



教育あっちこっち情報



学芸会、学習報告会に参加して

教育委員 金井 秀明

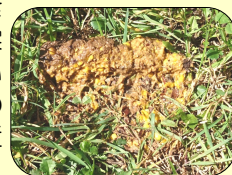
10月、11月は学芸会、学習報告会シーズンです。認定こども園の園児から中学生まで、元気に発表しているところを見学させていただきました。大きな学校ではクラスや、学年ごとに良くまとまり、演劇や器楽合奏、コースと立派な発表がされていました。小規模学校では学年を超え、児童全員で演劇や器楽合奏が行われ、一人で何役もこなしていることに感動を覚えました。どの学校でも感じたことですが、弟子屈町の児童生徒は歌や、楽器が上手だと感じました。これが弟子屈町の伝統なのでしょう、今後も継続されていけばと思います。ところで、今年の園児たちの将来なりたい職業に「ユーチューバー」と答える児童が何名かいたのですが、今年是一名もいませんでした。すでにユーチューバーは古く、今はインフルエンサーがトレンドでしょうか。



『熊』の存在

教育委員 菅原 誓之

私はお寺の住職をしています。毎年10月には大法要が勤まります。その法要を荘厳（立華）するため、沢山のトドマツが必要になります。今年も松を取るため、お檀家さん所有の山に入った9月下旬のある日。林道入口から徐々に松を取り、一番奥に着いて車をUターンさせ、最後の松を切って帰り支度をする事に。トラックのアウトリガーを収納して、ふと足元を見ると、見た事もないような大きなフンが！そのフンの中には消化しきれていないデントコーンの黄色い実が沢山。これは『熊のフン』に違いないと写真に。まだ間もない様子のフンを後に急いで帰路へ。人間と近い位置の熊の存在を実感した。



公営塾開講記念特別記念講演会に出席しました

職務代理 榎本 悦子

11月16日公民館で、夏休みに初めて行われた公営塾の実績や冬期講習について株式会社バース47の大山塾長から説明があり、その後記念講演としてインターステラテクノロジズ株式会社の金井竜一朗さんから演題「弟子屈から宇宙へ～学びを通じた夢や希望の実現」とした講演がありました。現在大樹町でロケット開発にご活躍の金井竜一朗さんは、教育委員金井さんの御子息であり、美留和小学校・弟子屈中学校と地域で育った方です。8月にも「星空の街あおぞらの街」全国大会in弟子屈でも講演をして頂きましたが、今回は町民対象であり笑いも交えた楽しいお話でした。ロケットに関心を持つきっかけとなった事やその夢を確固たるものにした事などが具体的に若者らしく話され、また質問にも快活に応えられ会場があたたかいものとなりました。この町の子供達にとって本当に頼もしい先輩とかんじました。これからのご活躍楽しみにしつつ、機会があれば今度は子供達に講演して頂きたいと思いました。



日本民謡三絃渡邊孝帆会「文化奨励賞」受賞！！

教育長 小林 俊夫

10月27日摩周観光文化センターで「令和元年度第70回弟子屈町総合文化祭芸能発表会」開催に先立って、教育委員や文化賞審議会委員等が出席する中、「令和元年度弟子屈町文化奨励賞贈呈式」が行われました。受賞された方は「日本民謡三絃渡邊孝帆会」です。受賞理由は「39年間にわたり、本町を代表する伝統芸能の団体として、全道規模のイベントや町内外の行事に積極的に参加し、高い評価を受けている。今後のより一層の活躍を期待し、町条例に基づき文化奨励賞に相応しい団体である」とし、町章と賞状板を貼り付けた木製の盾が贈られました。会を代表して出席した榊田副会長から「長く活動出来たのも皆さんのお陰です。奨励賞受賞を励みに、これからも会員一同、伝統芸能の発展に尽くしていきます。」と謝辞を述べて頂きました。心からお祝い申し上げます。



中南米からオーラ！

教育委員 吉田一徳

11月22日に弟小へJICA(国際協力機構)の研修員の皆さん13人が来ました。研修員の出身地はアルゼンチンやペルー、コスタリカなど中南米のスペイン語圏11ヶ国の方でした。来校後は全校生徒と一緒にじゃんけん列車をやり、給食のあとは3年生の授業と忙しい日程のなかで弟小の生徒と充実した時間を過ごして頂けたと思います。生徒にも良い機会だったようで、我が家の息子も帰るなり「マチュピチュってね・・・」と言い出し、少ない時間だったにも関わらず何か感じるものがあったようで、毎年とは言わずとも弟子屈の子供達全員が体験できたら素晴らしいことだと思います。



★ ★ 編集後記 ★ ★

私の部屋から、旧営林署跡地（現商工会駐車場）『コラーレ』が見えます。今現在、温泉熱調査のため、毎日大量の湯気が上っている光景が目に入ります。寒空の夕焼けが、何だか少し暖かな気持ちになってきます。

(菅原)